

econ. No. 34

特集座談会 学園生は公務員をめざす!?

公務員?自治体職員?君は何をめざすのか

● OB・OG自治体職員の声

news 1 特別講義「地方自治体の仕事と労働組合」

川村雅則先生(4ページ)

連載企画 研究室の窓から●石井健先生

(5ページ)

news 2 発展途上国論特別講義

森下宏美先生(6ページ)

news 2 財政学特別講演会

野口剛先生(6ページ)

news 2 ゼミ対抗ソフトボール大会

早尻正宏先生(6ページ)

interview OB 訪問—働きマン⑰大澤俊信さん

(7ページ)

連載 column From a Distance ⑥上村仁司先生

(8ページ)

news 3 就職情報

田中仁史先生(8ページ)

表紙写真：ゼミ対抗ソフトボール大会で、企画・運営にあたる経済学部ゼミナール協議会の学生



特集座談会

学園生は公務員をめざす!?

公務員?自治体職員?君は何をめざすのか

毎年、本学卒業生の就職先として高い割合の公務員だが、ひとくちに公務員といっても、国家公務員、警察官、自治体職員などさまざまだ。経済学部も多くの公務員を輩出しているが、その公務員志向、就職事情はどのようなだろう?

出席者：内田和宏先生、西村宣彦先生、水野谷武志先生、
武田颯太郎さん、大谷香朝さん、三島加菜さん、岩倉純平さん



西村：本学経済学部では卒業生の19.1%、5人に1人くらいが公務員になります。なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのか、公務員試験を目指している学生の皆さんと、本学で社会教育主事課程を担当し、自治体職員としての経験をお持ちの内田先生を交えて、お話ししていきたいと思います。まず学生の皆さんへ、公務員を目指そうと思った理由やきっかけを教えてください。



西村 宣彦 先生 自治体職員としての経験をお持ちの内田先生を交えて、お話ししていきたいと思います。まず学生の皆さんへ、公務員を目指そうと思った理由やきっかけを教えてください。

武田：内田ゼミ4年の武田颯太郎と言います。高校の時に生徒会をやっていて、皆のために奉仕する活動を経験し、職業を考えた時に営利的なことよりも、地域に住んでいる人たちのために働くという方が、自分に向いているのかなという漠然としたイメージがありました。大学1年時のガイダンスで、社会教育主事課程を知り、最初は何となく公務員になりたいというくらいの安易な理由だったのですが、実はこの社会教育主事という仕事が、地域で暮らしている住民達の学習活動を支えて、地域に貢献していく重要な仕事だということを知り、3年目頃からようやく理解できるようになりました。

大谷：西村ゼミ4年の大谷香朝です。私も1年生から社会教育主事課程を取っています。大学に入る前は、特に公務員なろうと

は思っていませんでした。大学に入って社会教育主事課程やゼミの中で、まちづくりについて勉強する機会がすごく多くて、「まちづくりって面白い、楽しそうだな」と思って、興味を持ったのが一番の理由です。課程では実習もたくさんあって、実践的にやっているのだから、それが楽しかったというのがありますね。

三島：宮本ゼミ4年の三島加菜です。私は3年まで1部でしたが、転部して4年から2部になりました。公務員には小学校の時からなりたと思っていました。家があまり裕福ではなくて、安定した職業につきたいと思ったのがきっかけです。高校生くらいまでは警察官を目指していたのですが、大学に入ってゼミで子どもの貧困の現状を学んで、自治体職員に興味を持つようになりました。

岩倉：水野谷ゼミ3年の岩倉純平です。公務員志望ということで公務員講座を受けていますが、一般的に公務員が良いと言われて「安定」という理由で、公務員試験の勉強をしています。



岩倉 純平さん
いわくら じゅんぺい
3年●水野谷ゼミ
小樽潮陵高校出身

西村：4年の皆さんは今公務員試験の真っ最中で、一生懸命受けているところかと思えます。岩倉君は3年なのでまだ勉強中の身ですが、その勉強はいわゆる試験勉強

強だよ。もちろん試験に受からないことにはなれないのですが、晴れて試験に合格すれば、長ければ40年くらい公務員としての職業人生が待っています。そこで公務員になったらこんな仕事がしたい、或いはこんなふうには仕事をしたいと思っていることを、次にお聞きしたいのですが。

岩倉：正直、何をしたいとかはないです。(笑)今はとりあえず公務員になれたらいいなという考えなので、職種の希望もないですね。

西村：正直でいいですね。

武田：僕は札幌育ちですけど、地方に行きたいと思っています。札幌は北海道で一番大きなマチですが、農業や漁業が主産業の地方のマチがあって札幌も成り立っているんだということを知り、勉強していくうちに感じるようになって。地方がそれぞれ生き残っていかないと、北海道そのものが全部駄目になっちゃうんじゃないかと思って、地方で働きたいと考えるようになりました。そして地域研修で浦河町に行って、教育委員会主催の事業にボランティアで参加するうちに、こういう職員さんたちと一緒にこのマチのために働きたいという気持ちが強くなりました。小さなマチだと進学や就職で若い人が出ていきますが、一度出て行っ



武田 颯太郎さん
たけだ そうたろう
4年●内田ゼミ
札幌国際情報高校出身

● OB・OG の声

今回の特集に関連して、自治体職員として活躍する本学経済部出身のみなさんに、先輩公務員の立場から、現在の仕事について、質問に答えていただきました。

■ 略歴

- ① 出身高校 ② 出身ゼミ
- ③ 勤務先・部局 / 勤務年数

■ 質問項目

- ① 現在の仕事内容
- ② 仕事でやりがいを感じるのはどんな時
- ③ 公務員になろうと思った理由
- ④ 学生時代に力を入れて学んだこと
- ⑤ 公務員を目指す現役学生に一言



石上 千里 (いしがみちさと) さん

- ① 富良野高校 ② 川村ゼミ
- ③ 石狩市役所保健福祉部障がい支援課 / 4年目

- ① 障がいのある方が手続きをするための窓口です。市民の方と接する機会は大変多い部署です。
- ② 単純ですが、手続きをしたりお話を聞いた後で「ありがとうございます」と気持ちを伝えてもらえたときは、嬉しく思います。
- ③ 市役所職員だった父の姿に憧れ小学生のときから志望していました。
- ④ ゼミの調査で介護施設や公共サービス職場を訪問してお話を伺い、報告書を作成しました。
- ⑤ 公務員は人とのつながりを感じることでできる温かい仕事だと思います。



須藤 慶之 (すどうよしゆき) さん

- ① 帯広緑陽高校 ② 水野谷ゼミ
- ③ 北海道オホーツク総合振興局 産業振興部商工労働観光課 / 2年目

- ① 高圧ガス保安法など産業保安に係る業務、関わる業界の指導を行っていますが、事業者との友好的な関係構築が大切な業務です。
- ② 事業者との信頼関係を築き上げること。親身になって問題解決をすることで信頼関係が築けたとき。
- ③ 父親の仕事の関係で道内転居を繰り返し、道内の様々な特色を肌で感じ、生まれ育った北海道に恩返しをしたいと思います。
- ④ 4年間社会教育主事課程の実習先で、町を元気にするために何をしたら良いかを考え実践したこと。
- ⑤ 安定しているからだからという公務員選択は間違っていると思います。公務員の魅力は住民の暮らしを豊かに、笑顔にできることだと思います。

た人が将来また戻ってきて、このマチで子育てしたいと思えるようなまちづくりをすることが大事なのかなと。そうすれば人口を増やすことはできなくても、マチを維持・存続していくことはできるのかなと思います。働くようになったらそんな仕事をしたいと思っています。

西村:そこまで深く考えているのですね。大谷さんも何か野望はありますか。

大谷:野望とかはないですが、社会教育主事課程の授業で、子育て支援に関する勉強をして、すごく興味深かったので、子育て支援の仕事がやりたいというのがあります。具体的には、今の親の悩みを相談する場所



大谷 香朝さん
おおたに かのり
4年●西村ゼミ
室蘭高校出身

があまりなくて、昔なら近所の人がいて、地域で一緒に子育てするようなことがあったと思うんですけど、今はそういう場がないので、悩みを抱えてしまって、それが暴力や虐待につながることもあると思うので、母親同士や子育てを終えた経験者の方が話をして、悩みを共有したり相談できるような場を作る仕事ができればと考えています。

三島:私はいろんなところに住んでいたんですけど、今住んでる北広島市の職員の方の対応がとても丁寧ですごいと思ったんです。すごく大変な手続きでも、市民の立場に寄り添って考えられる職員になりたいと、その職員の方の対応を見て思いました。また貧困家庭の子どもを支援する仕事をしたいと考えていて、札幌近郊で一番力を入れて取り組んでいるのが北広島市だったので、私もそこで働きたいと思いました。

西村:宮本ゼミでは子どもの貧困をテーマに勉強しているんですか？

三島:子どもの貧困については、中学・高校の時から調べたり本を読んだりしていま

した。大学に入ってからスウェーデンやデンマークは幸福度が高いという本を読んですごいなと思って、今はスウェーデンの政策について調べています。

西村:岩倉君どうですか。先輩方の話を聞いて。

岩倉:いやあ皆さん動機がすごすぎて。私は何もカッコいいこと言えないですけど、ただ最近、中田先生の社会保障論の講義で、道の児童相談所の職員の方から、児童虐待の話聞く機会があって、こういう仕事もあるんだなと、漠然とですが感じるものがありました。

西村:そろそろ内田先生にお話していただきたいのですが、社会教育主事課程をご担当されて、公務員を目指している多くの学生を教育指導されているお立場から、最近の学生についてお感じになっていることはありますか。あと「公務員と自治体職員は違う」という話も教えてもらえませんか。



●内田 和浩先生

内田:自治体職員と言うのは、結局「あなた誰のために働いているんですか？」というのがポイントです。もちろん地域に住む人たちのためなんだけど、公務員と言うと「誰のため」という部分がばやけちゃうんだよね。学生も公務員になること自体が目標になって、公務員試験も手当たり次第に受けて、受かったところに行くというのはちょっとどうなの？って思う。このマチの人たちのために働きたいという思いがあって、そのために必要な準備をしていくということ、大学として指導すべきだと僕は思ってます。

西村:公務員と自治体職員では仕事への向き合い方が違う？



三島 加菜さん
みしま かな
2部4年●宮本ゼミ
札幌啓成高校出身

内田:違いますね。昔話をすると、34年前に神奈川県内の市役所に入って8年いたんだよね。で40人いた大卒の同期の仲間と飲んで話をすると、「5時になったらびったり帰る。そのために市役所に入ったんだ」って言う。「それはおかしいだろ」と言っても、「なんで？」とか言ってる。当時はいわゆる公務員になろうって人は、給与はそこそこで、土日が休みで、アフターファイブに好きなことができる、それを求めて入る人が多かった。でも入ってみると違うんだよね。実際は結構仕事も忙しいし、その人も3年で辞めちゃった。だからそういう安易な考えで入った人が自治体職員を続けるのは多分無理で、学生にもそのことは伝えたい。自治体職員になって何をするのか、それが無い人は入れないし、入るべきじゃない。

西村:これからの時代は自治体の置かれている状況ももっと変わっていくと思うんですよね。人口が減って、国も地方交付税を配る余裕がなくなっていけば、公務員＝「安定」という図式もどこまで成り立つのか疑問です。僕は10年夕張に通っているんで、給与が半分になる、職員も半分になるということが、実際10年前にあったんですよ。そういうときに、本当に地域のために働きたいという強い思いのある人なら、「何くそ」と言って頑張れると思うのですが。

内田:でも最近の学生は考え方が保守的です。少し戸惑いはあります。

武田:公務員や教員志望の人と話しているのは、大学に入る時から先生になるとか公務員になると決めていて、それ以外のことは興味がない、自分には必要ないと切ってる人が多いのかなと。先生になっただけで人間性が問われるので、試験勉強以外にも色々な経験をしておいた方がいいと思うのですが。

西村:目先の損得で楽な生き方を選ぶのは、一見クールで合理的に見えるけど、勿



内藤 泰葉(ないとう やすは)さん

●a 北海高校 ●b 川村ゼミ・内田ゼミ(大学院) ●c 訓子府町教育委員会
社会教育課 / 3年目

- 小学生から成人を対象とした講座の企画・実施など幅広い層の学習活動の支援。
- 住民と一緒にできる事業が実現できるとやりがいも感じる。住民から色々な相談をうけると頼られている実感ができ、もっと頑張ろうと思う。
- 公務員になりたかったわけではないです(笑)。地域の中で自分がどのような役割を果たし、社会教育主事の必要性を自ら実証したいと思った。
- 社会教育に関係する集会に行ってみたり、社会教育団体に参加してみたりした。
- 試験の勉強ができるだけの職員は求められていない。公務員になって何をしたいのかを具体的にすることが大切。



野呂 晶菜(のろ あきな)さん

●a 函館白百合学園高校 ●b 西村ゼミ ●c 函館市 農林水産部 / 2年目

- 主な業務は農業者を対象とした交付金等の交付事務や照会回答です。事務といっても農作物の生産計画など専門的知識が必要で、イベント出店や視察など勉強させて頂く機会が多かったです。
- 今までの自分にはなかった新しい視点を持つようになる瞬間、気づける瞬間にやりがいを感じます。
- 「コミュニティ段階からまちづくりに携わりたい」という気持ちが強くなり地元市役所を志望しました。
- 飲食店アルバイトと本学文化協議会本部主催の地方公演(道内小学校など)に力をいれました。
- 「平凡な仕事」のイメージとはかけ離れていました。なんとなく試験勉強するより、どんな仕事をしたいか具体的なイメージを持って下さい。



佐藤 将貴(さとう まさたか)さん

●a 旭川凌雲高校 ●b 大貝ゼミ ●c 北広島市役所保健福祉部福祉課 / 4ヶ月

- 現在は窓口業務が全般で障がいに関する申請や相談を受けています。今後は先輩方の仕事を引き継ぎ、事務処理なども覚えていく予定です。
- 市民や職場の方々に「ありがとう」と言われる時です!
- 中学生の頃、住民のために働く自治体職員の方に強く憧れたからです。
- ゼミの活動を中心に日本の食を支える北海道の農業について学びました。気が付けば一人でも道内各地に遠征して調査していました。
- 筆記試験対策だけでなく、自分磨きも全力でやりましょう! キャリア支援センターで使えるツールはフル活用することがおすすめです。



体ないし、社会に出たら通用しなくなるので、色々なことに興味を持って経験して視野を広げてほしいよね。ただ最近の学生が保守的なのは、生まれたときから経済が停滞したままで、将来への不安が蔓延する中で、必ずしも責められない面もあるのかなとも思う。民間の雇用も不安定化しているし、特に女性が仕事と家庭の両立を考えたときに、公務員に安定を期待するのも悪いとは言えないのかなとも思います。

内田：それはそうだけど、女性職員でも土日出勤で深夜まで残業してるような実態もあるから、そういう先輩達の生の話をよく聞いた方がいいと思う。それでもやりがいを感じている人は生き生きしてますよ。

水野谷：最初からこれをやりたい！ということがあって、公務員になる人もいるんですけど、学生時代は傍目から見るとおちゃらけてるんだけど、実は芯が強かったり、変な魅力を持っていたりする学 ●水野谷 武志 先生
生が、案外うまくやれていることもあるのかなという気がします。



内田：多分、自治体職員というのは、人と付き合えるかどうかだと思う。試験勉強ばかりやるより、地域研修とか地域でボラン

ティアとか、そういうのをいっぱいやった方が、コミュニケーション能力も高くなる。そういう人は人付き合いができて、人の心に入っていけるから、地域の人と仲良くなれて、自分も地域に同化できる。それを仕事に生かしていければ、もう自治体職員合格です。「筆記試験は得意だけど人付き合いは苦手」という人は、自治体職員には向かない。

大谷：私は大学に入るまで人見知りがすごく、大学に入って社会教育の実習などでよくなった部分はありますが、自分から発信するのはあまり得意ではないので、ちょっと不安です。ただ話を聞くのは得意だと思うので、何でも相談してもらえそうな職員になりたいと思っています。

岩倉：私も含めて多くの人は先輩方みたいな立派な動機を持たずに、何となく公務員試験の勉強をやってるんじゃないかと思います。公務員講座でも入ってからのことは言われなくて、筆記で受かって面接対策して、受かればそれでオールオッケーみたいな、そういう雰囲気が全体的にあるんで、こういう機会先輩の話の聞いたり、入ってからのことを知る機会がもっとあればいいと思います。

三島：私も内田先生や他の公務員志望者の話が聞けて、とても刺激になりました。

水野谷：札幌一極集中、東京一極集中もですが、それを変えていかなきゃいけないときに、キーパーソンになるのは自治体職員で、大学としてもそこで活躍してくれる人材を輩出していきたいです。地域の

期待も大きいですし、「自分が地域を変えてやる！」くらいの意気込みの学生が出てくるゼミや授業にしていきたいですね。

内田：人と話ができ、相手に寄り添うことができる、そういうコミュニケーション能力を身につけるということ、社会教育主事課程では意識的にやっています。経済学部でも地域研修がそういう位置づけだと思いますが、これも一回行って終わりではなくて、継続して通うような関係を築いて、地域や役場の人と日常的な関係ができてくると、自分もこの町に住んで一緒に働きたいなっていう風になってくるかもしれないでしょ。そのときはじめて自治体職員の仕事は何か、地域で働くとはどういうことかを実感できる。そういう意識になって、試験勉強をして入る。何となく勉強して入るんじゃないでね。そんな仕掛けを学部としても作っていったらいいですね。

西村：経済学では、個々の人間が自分の利益を追求することで、社会全体が豊かになるという考え方がありますが、公務員にはあまりあてはまらなさそうですね。自分の幸せを考えるのは誰しも当然ですが、公務員を目指す人はプラスアルファで、地域や社会のために奉仕したいという思いがないと、地域住民にとっても、これからの時代は本人にとっても不幸です。ただ勉強一本槍よりも、遊び心があったり、人と心を通わせられることも大事だと。そのためにも地域研修やボランティアなど、色々なタイプや年齢の人と触れ合う機会を積極的に持ってほしいし、そうした経験の中で感じたことが自分の原点になり、その後の仕事の原動力になれば、とても幸せなことだと思います。大学としてもそんな機会をもっと作っていったらと思います。今日はどうもありがとうございました。(敬称略)

econ.News 1

【平成28年前期】特別講義

「地方自治体の仕事と労働組合」

自治体職員等で組織される自治労北海道本部の協力を得て「地方自治体の仕事と労働組合」という特別講義を2015年度から開講している。

キャリア教育の重要性が言われるものの、働く人びとの日常を学生が知る機会は少ない。本学には公務員を目指す者が多いが、その志望理由の多くは、漠然とした「安定」であるように思われる。知る機会がないのだから致し方ないかもしれないが、それはやはり克服したい。市民生活を支える重責を担いながらも、職員定数の削減や財

政難という制約で思うように仕事ができない、そうした自治体職場の現状をまずは学びながら、問題発見・解決能力を高めてもらおうと本講義を開講した。

現場に詳しい自治体職員・労組や首長が講師として参加し、毎回のテーマも、地方の危機・財政問題、貧困・社会福祉、地方創生・まちづくり、原発・基地など多岐に



写真左：第1回目講義「フクシマから考える」で、自治労福島県本部執行委員長今野泰さん
写真右：最終回講義「地方公務員になるとは」で、本学学生と自治体職員お2人を迎えておこなったパネルディスカッション

わたる。現代日本の労働組合が抱える課題にも切り込んでいる。住民福祉の増進を目指す者がここから多数輩出されることを願っている。【川村】

研究室の窓から

年季奉公人、イギリスから英領アメリカ植民地に渡った人々

石井 健 経済学部教授
いしい たけし

【専門は近世イギリス社会経済史】1998年一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程単位修得
退学、2009年一橋大学大学院博士（社会学）取得

●主な論文・著書に、『近世イングランドの年季奉公人』淡水社、2012年（単著）



アメリカに渡った年季奉公人たち

歴史というと、人は英雄豪傑の冒険譚か、宮廷に渦巻く陰謀劇か、はたまた美男美女のラブ・ロマンスか、いずれにせよ特別な人々の波瀾万丈の物語を想起することでしょう。けれど、想起する人自身はたいてい、そのような非日常の世界の住人ではなくて、繰り返される日常生活の営みの中にあります。

しかし、このごくふつうの人々がそれまでの生活世界を捨てて、新天地へと飛び込んでいくことが時にあります。これが移住・移民と呼ばれる現象です。これも先駆者に焦点を当てれば開拓者の冒険譚として語られるのですが、絶え間ない人の移動として構造化されていくと、もはや非日常の現象も日常化され、事件史は構造史へと席を譲ることになります。近世期のヨーロッパからアメリカへの移民現象はその一例となるでしょう。

私が主に研究してきたのは、そうした移民現象の一部、17世紀から18世紀にかけて、イギリスから英領アメリカ植民地に渡った人々、とりわけ年季奉公人と称される人々についてです。この時期のイギリス系アメリカ移民というと、17世紀前半、マサチューセッツなどニューイングランドと称される地域へ移民したピューリタン移民が有名です。けれど、有名であることと全体の代表であることは別でして、ピューリタン移民はこの時期のイギリス系移民の中では特殊な部類の存在であり、大多数はそれとは異なる性質の人々でした。それが、年季奉公人と呼ばれる形態の移民です。

年季奉公人の特徴は、主に10代後半から20代前半の青少年層に集中している点です。これは同時代のイギリス社会では徒弟や農業奉公人や家事奉公人といった職種の人々の特徴と共通しています。かれらは一人前になるまでの一時期、住み込み奉公に従事している人々ということから「ライフサイクル奉公人（サーヴァント）」と呼ばれますが、年季奉公人の場合、その奉公先が大

西洋の対岸、アメリカにあったというのがその兄弟たちとの一番の違いです。ただし、海を渡るにはただとはいきません。とはいえ、この年代の少年少女が自前で高額の渡航費を払えるわけもなく、そこで渡航費を前借りし、アメリカに着いてから自分の労働で返済するという仕組みが生み出されました。これが移民の一形態としてみた場合の年季奉公人の特徴でもあります。

さて、かれらの社会的特徴は以上のようなものであったとして、ではその経済的特徴はどのようなものだったのでしょうか。渡航費が払えないから、かれらは総じて食い詰めた貧乏人だった、と考えるのは短絡的でしょう。一人前になる前の十分な資産に乏しい世代が大勢を占めていたのですから、むしろ払えないのは当然で、そのことを理由にかれらを貧乏人や浮浪者の群れとただちに同一視するわけにはいかないのです。つまり、これを言うためには同じ奉公人世代の青少年でもとりわけ貧しい者たちが年季奉公人になったことを実証しなければなりません。

同時代人の記述史料では年季奉公人がそのような存在として言及されていることが少なくありません。ですが、その証言も詳細に検討してみると、事実を語っているというよりは、何か別の意図があって、貧民として描かれていることがわかります。つまり年季奉公人が低い評価を受けているとき、それはたいていの場合他に高く評価したい対象があるのです。したがって、同時代人の記述史料を持ち出してみても、年季奉公人一般を貧乏人とみなす根拠は極めて薄弱ということになります。

移住と地域史研究

そこで、この問題を確証するためにはもっと個別の事例研究を積み重ねていく必要があります。それは必然的に地域史研究という方法・領域へとむかうこととなります。

イギリスの場合、地域史、といいますが、郷土史の伝統は遠く16世紀にさかのぼりま



イギリス中西部の農村風景

す。ルネサンスの影響下、イギリスの人文学者たちはその探求の目を国内に残る古代ローマの遺物へと向けました。それは結果として古代からの伝統をもつ地元の歴史を発見することとなりました。こうした探求は古事物理学と呼ばれます。遺物資料や文献史料に依拠して事実の確定を目指すというその研究態度は、近年の社会史研究の先駆者と評する人もいれば、事実拘泥して理論を欠く点を批判する人もいます。とにかく、この古事物理学の下、州史・都市史・教区史が20世紀に至るまで多く物されてきました。

さて、年季奉公人の社会的・経済的特徴をより明確にしようとするならば、たんにマスとしてとらえるだけでなく、個々の事例を考察する必要があります。それは結局、かれらの生まれ育った地域社会にまでさかのぼって探求することにつながり、つまり郷土史・地域史研究に行き着くわけです。移住する人々の特徴を明らかにするために定住社会の研究をするというのは逆説的ではありますが、史料的にも仕方ないことです。私の場合、事例研究の対象としてイギリス中西部、ヘリフォードシアのワイ川流域の農村地帯を取り上げました。ここを取り上げた理由はいくつかあるのですが省きます。結論だけを述べると、残念ながら実証は道半ばというところでしょうか。とくに奉公人の精神的／心性史的側面は手つかずのままです。これが今後の研究の課題となっています。

1部ゼミ対抗 ソフトボール大会



▲決勝戦を前に逸見基礎ゼミと平野ゼミⅡ・Ⅲ、大会運営にあたる経済学部ゼミナール協議会のみなさん

近づく夏に向けて
学習への英気を養う毎年恒例の「ゼミナール対抗ソフトボール大会」が6月14日～22日、月寒公園高台野球場で開催されました。梅雨のようなあいにくの天候により雨天順延を余儀なくされましたが、基礎ゼミから18チーム、専門ゼミから29チームの計47チームがエントリーし、白熱した闘いを繰り広げました。野口先生や大貝先生、宮本先生など教員陣のハッスルプレーは会場を大いに沸かせました。強豪ひしめくトーナメントを勝ち上がり決勝にコマを進めたのは逸見基礎ゼミと平野ゼミⅡ・Ⅲ。どちらも譲らない好ゲームでしたが、打線が爆発した平野ゼミが4対1で制しました。また、3位決定戦では田中基礎ゼミと中岡ゼミⅠ・Ⅱが相まみえ、接戦の末、2対1で田中基礎ゼミが3位を勝ち取りました。初々しさが残る1年生チームの活躍が目立った大会となりました。[早尻]



[平成28年5月26日] 発展途上国論特別講義

「アヒル銀行 牛銀行って何？ —ベトナム農村からみえること—

講師 ● 伊能まゆ氏 [NGO「Seed to Table」代表]

アヒル銀行？文字通り、アヒルを貸す銀行です。場所はベトナム南部ベンチェ省の農村。農民は25羽のヒナを借り、それを成鳥に育てて現金に換えます。その中から借りたヒナの代金を銀行に返し、残りの5～6,000円が農民の収入になる仕組みです。これを立ち上げたのが伊能さん。そのお話を聴こうと、5月27日に講演会を開催しました。約30名の参加者の中には、これからベトナムに渡航予定の学生もいました。銀行を始めた当初、地元の役人からは、たった25羽で貧困から抜け出せるわけがないと言われたそうですが、「決めたらやめない」の決断力と行動力で各家を回り、これまでに990世帯が参加し、さらに収益性の高い牛銀行に進む人たちも出てきているそうです。市場経済化や塩害などによる環境破壊が進む中、伊能さんは、人・知恵・自然といった在来の資源を活用した地域づくりを通じて、農民の安定した暮らしの実現に奮闘しています。その姿に、私たちも元気をもらいました。

[森下]



講師の伊能まゆ氏を囲んで(写真内2列目、左から1人目が本学部・森下宏美教授、2人目が本学部発展途上国論・平野研教授、3人目が伊能まゆ氏)

[平成28年6月7日] 財政学特別講演会

「わが国の財政の現状と課題：国と地方の視点から」

講師 ● 北海道財務局理財部 特別主計実地監査官・上席主計実地監査官 伊東貴世美氏 融資課長 穂苅泰弘氏

6月7日(火)に、本学卒業後に財務省北海道財務局で活躍されている伊東貴世美氏と穂苅泰弘氏を講師にお迎えし、講演会を開催しました。まず伊東氏からは、財務局の組織、業務、機能、また国の予算編成の仕組み、予算の無駄遣いのチェックの仕組み、そして財政の現状などを説明されたあと、受講生に財政をより身近なものとして考える一助となるような問いかけがなされました。次に穂苅氏からは、国と地方の財政状況を比較した後、両者の関係、また地方交付税や臨時財政対策債などの地方財政対策や財政投融资の仕組みなどを、豊富なお経験をもとにお話しいただきました。約160人の受講生の受講後アンケートによりますと、財務局の業務がイメージできた、予算執行調査などの予算の無駄遣いをチェックする仕組みの有効性は本当にあるのか、わが国財政の財政破綻の可能性はどの程度あるのか、などの感想や質問が寄せられました。伊東氏、穂苅氏をはじめ、講演会開催にご尽力をいただきました皆様に、感謝申し上げます。[野口]



写真上左から、講師の伊東氏(写真下も)と穂苅氏、本学部野口剛准教授



大手コンサルタントから 木質バイオマスエネルギーの 夢追い人に!

大澤 俊信さん
おおさわ としのぶ



大澤さんが企画し経営している、グリーンビズの認定を受けたエコアパート。
写真(左)で大澤さんが手にしているのはグリーン・ビズ認定証

学生時代はアメリカンフットボールに闘志をたぎらし、会社員時代は営業成績でトップを競い、退職後は家業を継いで再生可能エネルギーの地産地消実現に夢を懸ける。

フットボールから就職へ

2014年10月、本学アメリカンフットボール部の秋季リーグ戦、会場である北海道医療大学グラウンドに大澤俊信さんの姿があった。二部リーグ落ちをしていた同部の一部リーグ復帰を懸けた大事な一戦にOB会幹事長として、ひときわ大きな声援を送っていた。試合後、チームの輪の中に入り、熱く後輩たちを叱咤激励する姿に、長年大手コンサルタント会社の一線を勤め上げてきたビジネスマンの颯爽たる姿が重なった。大学で友人に強く誘われアメリカンフットボール部に入部、それまで柔道を続けてきた持ち前のスポーツマン魂が格闘技的な激しさを伴うこの競技に熱中させた。ゼミ選択も部活動休養日の月曜日に開講するゼミを選ぶほどだった。

大澤さんは、1955年生まれの61歳、当別町で豊富な木材資源を利用して、木製スプーン製造事業を興していた親の影響もあって、経営に興味を持つようになっていた。本学を卒業後、一度は親元を離れることを決断するが、ゆくゆくは故郷に戻り家業を引き継ぐことも視野にいれ、当時コンサルティング業界で成長を遂げていた日本コンサルタントグループ（以下、ニッコンと略）に就職をする。その就職活動が特異だ。卒業間近の1979年後半、フットボールは秋が競技シーズンのため、就職活動に出遅れた大澤さんだった。まわりから本学OB企業などを紹介されたが、東京で働きたい気持ちがあった。そこで経営ということを大きな視点で学べる会社に狙いを定め、札幌に出先のあったニッコンを訪ねた。ところがこの年の新卒採用は終わった直後だった。大澤さんは諦めない。札幌営業所長が勧めてくれたこともあり本社訪問を決行。その大澤さんの熱意が伝わって、社長面談後、即内定となる。そして入社後4月、念願の東京営業部配属となった。



学生時代のアメリカンフットボール部集合写真
(前列右から3番目62番が大澤さん)

走り続けた会社員時代

ニッコンは顧客業界毎の研究所を持ち、実務と研究を追求するコンサルティングを目指していた。子供の頃から家業を手伝っていた根っからの働き者で体力には自信のあるスポーツマンの大澤さん、入社後3年間は厳しい社内教育を受けたが、一から営業を学ぼうと踏ん張り、また飛び込み営業などでも記録的な成績を上げるなど力を発揮した。28歳で営業成績1位の表彰を受け、30歳の時にはその実力が認められ札幌営業所長に抜擢される。そこでは北海道市町村振興協会に深く関わり、道内自治体の総合計画、観光振興計画などを数多く手がけることとなった。その業績は、現在もニッコンのホームページ沿革に特筆される程のことだった。7年後本社に戻ってからは、営業業務から、コンサルティング業務へ転向するための養成学校を経て、インストラクターなども担った。47歳、そんなやり手営業マン、コンサルタントになっていた大澤さんにヘッドハンティングが待ち受けていた。子どもたちの教育にちょうどお金のかかる時期にもさしかかっていた。リコーリース社へ、もちろん収入はアップ、北海道に戻ることも現実的に考えながらこの転職を実行した。そして約10年、リコーリースとして初めてのコールセンターの立ち上げや人材育成、日本コンサルタントで身につけた能力をいかんなく発揮。2007年に父親が認知症を発症、会社が大澤さんの貢献に応える形で札幌への転勤を決め30年振りに当別町に戻り、そして札幌勤務でサラリーマン人生を終えた。

木質バイオマス産業創造の夢

2013年、家業を受け継ぎ、既に木製品加工業からアパート経営に業態を転換していた

大澤産業の代表について。「当別以外の大家が増え、経営環境が益々厳しくなるなかで、築年数も38年と老朽化したアパートも空室が増え何か手を打たないといけない時期でした。東京にいる頃から戻ったらやりたいことをいろいろと考えている中に、東京で見学したエコアパートというのがありました。それをモデルに北海道初のエコアパートの建築に着手、2014年に菜園付きペレットストーブ付きのアパートを完成させました。当別町は62%が森林面積です。目指しているのは、カラマツなどの間伐材を原料にペレット燃料を作り、灯油の代わりにする地産地消のエコな再生エネルギーです。ペレットは木質バイオマスの再生エネルギーとしてまだまだ認知度も低く、これから町民向けの勉強会などもどんどん進めていきたいと考えています。将来、当別産のペレットが炎となって輝く日が来ますよ」と、大澤さんは熱く語ってくれた。大澤さんのエコアパートは、環境に配慮した事業を行う企業を評価する「北海道グリーン・ビズ認定制度」の昨年度認定企業に選ばれた。「ペレットストーブだけではなく、建材や断熱材に道産材を使い、壁のホタテ貝殻を使用した漆喰は私が自ら塗りました」と、そこにはフットボウラーのような鋭い視線とはまた違った、仕事と楽しく向き合う大澤さんの笑顔があった。大学、会社員時代、そして現在といつも正面から事態に向き合ってきた大澤さん「どこにどんな時間を投入したかを語れる人間になって欲しい。大学で何に取り組んできたか、それが社会に繋がっていく。どこにしようか、今でなければ学べないことに向き合って欲しい」という後輩たちへのメッセージで話を締めくくった。



profile
1955年 当別町生まれ
1974年 札幌光星高校卒業
1979年 本学経済学部卒業
1979年 株式会社日本コンサルタントグループ入社
2013年 大澤産業株式会社代表取締役就任

From a Distance 6

「私の始末書」

●上村 仁司 [経済学部教授]

自らの学生時代を思い出すたびに恥ずかしく感じる。まったくもって慙愧の念に堪えない。基本的に人見知りであり非社会的であった私は、また尊大で世間知らずでもあった。迷惑行為をコソコソと行っは、何か自分が人とは違う特別な存在である、と勘違いをしていた。だが当時は今と違ってずいぶんのんびりして、さして大きな問題にはならなかった。現在のような厳しい社会だったら一発レッドカードである。今の若い人はその点ではちょっと可哀想だなと思う。

本好きが高じて大学は文学部に入った。サドの研究をするつもりで仏文専攻に進んだ。だがたちまち勉強そっちのけでバンド

活動にうつつを抜かした。成績も低空飛行で、「可」だったらラッキー、と思っていた。親は高い学費を払ってくれたが、感謝の気持ちはついぞ持たなかった。今は自分が大学生の息子に仕送りをしている。なんと大変なことか。「親のありがたみは親になってわかる」とよく言うが、その通りだ。

大学4年生になって、教員採用試験を受けたが落ちた。「これからの英語教師は喋れないとだめだ」と留学経験のない英語教師だった父の勧めでイギリスに留学した。

「留学」はほどなく「遊学」となり、帰らなくなかった。「見聞を広げたい」と言って、一年をフランスで過ごした。「どこに行っても桜は桜だ」などとわかったようなことを周囲の人間に言ったりしていた。「外国で何を学んだのか」と友人に尋ねられた。「愛」と答えてけむに巻き、得意になっていた。

帰国するとバブル最盛期であった。しらくれ世代特有の屈折した性格にバブル的浅薄

さがプラスされていよいよ鼻持ちならない人間が出来上がるか、というところで結婚した。結婚とは毎日の生活のなかで他人と常にかかわることである。あらゆることに無関心を装い、「くだらない」の一言で済ませていた私は、本格的に「他者」と向き合わなければならなくなった。そのようにして世間知らずの私は、ようやく「世間」を知ったのである。

以上が若かりし日の所業に対する私の「始末書」です。



夾竹桃 photo : I.SASAKI

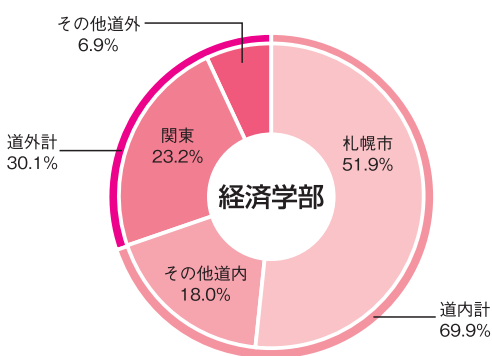
2016年就職情報 平成28年3月31日現在

経済学部の2016年3月卒業生の就職状況は下のグラフの通りでした。今年の経済学部卒業生の就職率は1部91.7%、2部87.3%で、前年と比べると1部が微減、2部が微増となりました。今年の卒業生は公務員試験の合格状況が堅調だったため、業種別では公務員として就職した人の割合が前年(17.8%)よりも少し高まっています。民間企業の中では、例年と同じくサービス業・金融業の企業に就職した人が比較的多いという結果でした。また、前年は道外就職の割合が高まっていた(28.4%)が、今年も約30%の卒業生が道外に就職しています。これは、全国的な人手不足により、積極的な採用を行う企業が首都圏

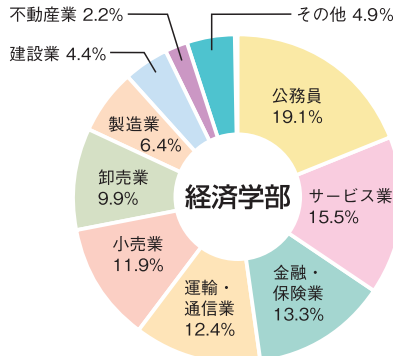
などに多くなっているためだと考えられます。道外の企業から本学に送られてくる求人票も、ここ数年着実に増えてきています。

今年は、就職活動の時期が変更になり、大企業を中心に面接などの選考開始が昨年よりも早まりました。これに伴い、現在の4年生の就職活動はすでに山場を迎えています。本学のキャリア支援センターでは就職支援の取り組みの一つとして、6月25日に第2回の合同企業説明会を開催しました。今回の説明会には、本学の学生を積極的に採用している50社の人事担当者の方が参加し、4年生に対してそれぞれ採用選考に関する説明を行いました。この企業説明会は毎年3回ずつ開催しており、今回は10月頃に行う予定です。[田中]

↓ 本社所在地別就職状況



↓ 業種別就職状況



6月25日に行われた第2回合同企業説明会

↓ 公務員・教員登録状況 [平成27年度卒業生・全学部] 平成28年3月31日現在 (右表同)

名称	人数
国家公務員一般職	89
国税専門官	30
財務専門官	6
裁判所職員一般職	6
皇宮護衛官	1
自衛隊幹部候補生	5
自衛隊一般曹候補生	10
警視庁警察官	17

名称	人数
北海道職員	46
一般	46
教育行政	25
技術	11
警察行政	35
学校事務	7
北海道	62
警察官	7
女性警察官	7
その他の警察官	1

名称	人数
札幌市職員	34
行政	34
技術系	10
学校事務	6
消防	10
その他市町村	122
その他公務員(上記分類以外)	16
公立学校教員(臨時含む)	50
国立大学等独立行政法人職員	68
総計	674

↓ 過去3カ年の主な内定先

企業名	人数
北海道職員	34
日本郵政グループ	23
北海道警察	21
札幌市役所	18
札幌市消防	14
北洋銀行	14
国家公務員一般職	13
北海信用金庫	12
マックスバリュ北海道	12
教員	10

[経済学部のみ] ※ 公務員は合格者数